

## 茨城県人口 300 万人到達に寄せて

茨城県企画部統計課長 広瀬邦弘

去る平成11年10月15日（金）をもって、茨城県の人口が300万人に到達しました。

人口300万人の到達は、全国で11番目となりますが、今後の我が国の人口予測をみますと、300万人に到達する県は、本県が最後になるのではないとも言われています。

本県の人口を振り返ってみますと、1871年（明治4年）に廃藩置県が行われ、茨城県が誕生したときの人口は、366,505人で、その後、新治県と結城郡、猿島郡の一部を統合し、茨城県のエリアが現在とほぼ同じになった1875年（明治8年）には、865,184人になりました。その後も本県の人口は順調に伸びつづけ、1889年（明治22年）には100万人を、1947年（昭和22年）には200万人を超えました。昭和40年代後半から、さらに人口は伸び、茨城国体が開催された1974年（昭和49年）には229万人を、国際科学技術博覧会が筑波で開催された1985年（昭和60年）には272万人を超えました。県人口が200万人を超えた1947年（昭和22年）から52年の月日を経て300万人に到達しましたが、この間、最も高い人口増加率を示したのは、戦後の復員のときでした。次に、昭和45年から昭和50年、そして55年代まで9%台の高い増加率を示しています。これは、東京通勤圏の拡大に伴い、県南の常磐線沿線地域の住宅開発や筑波研究学園都市の整備などによるものと考えられます。

また、豊かな自然や広大な平坦地といった恵まれた条件を生かし、農業粗生産額は第3位、製造品出荷額で第9位、1人当りの県民所得が第17位になるなど、農業と工業のバランスがとれた県として、順調に発展してきました。

10月18日（月）に県人口300万人到達を記念して、県庁舎2階県民ホールにおいて、県人口300

万人到達式が開催されました。橋本知事は、到達宣言のなかで、「この300万人になった人口の、さらなる増加を目指して、本県が発展をしていけるようがんばっていきたい」とあいさつの言葉を述べました。知事と本澤昭治県会議長によるくす玉割がおこなわれ、くす玉の中から‘祝 県人口300万人到達’のたれ幕が飛び出すと、会場に集まった県民の方々の間からたくさんの拍手がわき起こりました。この後、到達日予想クイズの抽選会が実施され、10万円相当の特産品はひたちなか市在住の高木あきさん（93才）に決定しました。この他、3万円相当の特産品が2名、1万円相当が5名、2千円相当が100名の方にプレゼントされました。

今後の県の人口は、北関東自動車道をはじめとする3本の高速道路や常陸那珂港、常磐新線の整備、百里飛行場の民間共用化など、県土の骨格となる交通プロジェクトが着実に進展することにより、なお一層の増加が見込まれているところで

す。県としては、人口の増加は、県勢発展を示す重要な指標のひとつとして考えており、この人口300万人到達を契機に、県民としての一体感を醸成していくことにより、さらなる郷土意識の高揚と、これからの「いばらきづくり」への参加意欲の向上を図って参るとともに、本県の伸びゆく姿を広くアピールし、県内外との交流を促進することにより、地域の活性化と本県のイメージアップを図っていききたいと考えています。

最後になりましたが、この300万人カウントダウン業務に御協力をいただいた市町村の皆様をはじめ関係者の方々に対し厚くお礼申し上げます。